

女性のためのエンパワーメント講座

「なりたい私を見つける～社会とつながるはじめての一步～」

エンパワーメントの基礎から自己表現力UP入門、色によって今の自分の感情を読み解くカラーセラピー体験、現在も多方面で活躍されている女性達の貴重な体験談も聞けるという盛り沢山の講座でした。

9月から10月にかけての5回の連続講座には、20～60代の女性15名ほどが参加し、回を増すごとに内容の濃さに引き込まれたようです。時には目からウロコが落ちました！なりたい私を見つけ、私が輝くためには、まず自分を知ることから始めるなど、この講座で学んだことを今後に活かしていきたいと感じました。

～講座スケジュール～

- 平成28年 9月 6日 オリエンテーション「家族・地域・社会」ワタシらしい生き方って？
 9月 13日 すぐに使える表現力UP入門Ⅰ ～私を伝えるチカラ～
 9月 20日 すぐに使える表現力UP入門Ⅱ ～意見や考えを伝えるチカラ～
 9月 27日 ワークショップ ～ハッピーになれるカラーセラピー～
 10月 4日 これからのワタシのデザイン ～先輩のリアルを聞く～

～受講生の声～

○講座受講のきっかけ

- 私は専業主婦で、ずっと子どもと一緒にいるのですが、空いている時間も多々あります。そんな中で社会とのつながりを持つには、もっと外に出たほうがいいかなって思って、チラシなどを見て申し込んだんです。
- 他の講座への参加をきっかけに、今回のエンパワーメント講座を薦められて参加しました。
- 今後、パートに出ようと思っているのですが、仕事のブランクがあるので、社会に出た時に職場で困らないように、日常にも役に立つと思いこの講座に参加しました。
- 講師として仕事を始めたいと思っていて、エンパワーメントを学んで、今後の仕事に活かせたらと思ったんです。
- 今、子ども達に太鼓を教えているので、よりよい関わりを持つためにエンパワーメントを学んで参加しました。

○私が輝くために、どうしたいか？

- 今まで、ご近所の付き合いもごちなかった。もう少し積極的に外に出たいと思います。
- もっと時間のコントロールを大事にしたい。
- 家族の体調管理を考え、今以上に料理を頑張りたい。
- これからパートタイマーで働き、社会貢献したい。
- 毎日楽しく笑顔で過ごしたい。

エンパワーメントとは、わたしたち一人一人が誰でも潜在的に持っているパワーや個性を再び生き生きと息吹かせることだよ。

○その他

- 子どもは二人が精一杯。
- 高齢出産の方が増え、母親同士の年齢差が開いてきています。どうしても子育てが自分流になってるから、年代の違うお母さん達と交流することで色々な子育てを知ることが出来るからいい。
- カラーセラピーが一番面白かった。絵が好きなので興味深くすぐたためになりました。
- 考えさせられた3日間の講義の後のカラーセラピーは、自分の中に入って来る感情が動く感じがしました。みんなそれぞれに色々な思いがあるっていうのが分かり、人間関係などで落ち込みがちなのままでもいいのかって思いました！
- いろいろな話を聞いて、今まで意識していなかったけど自分の気持ちが理解できた。これからは、この講座でわかったことを意識してやっていきたい。

編集後記

今回もお忙しい中、多くの皆さんに助けられながらこの情報誌が出来上がりました。毎回毎回パワーアップして読み応えのある情報誌になっていると信じておりますので、より多くのおみなさんに見ていただくと編集委員一同しあわせです。

「女性のためのエンパワーメント」講座では、子育てをしながら社会へ出て行こうとしている才能ある若いお母さんたちの夢や本音を知ることができました。多くの方に積極的に外へ出て人とのつながりを作ってほしいと思いました。 右京

特に高校生アンケートが興味深く楽しかったです♪ 試行錯誤して編集した「ほほえみ」を皆さん是非ゆっくり読んで下さい。ありがとうございました。 得田

アンケート、インタビューに協力していただいた皆様、有難うございました。ほほえみ編集委員会は、毎回様々な話題で話が盛り上がり楽しかったです！貴重なお話や意見をお聞きし、とても勉強になりました。 中村

江戸下町、「二代目紙芝居師；三橋とらさん」のインタビューや高校生アンケート、エンパワーメント講座など、盛りだくさんの情報誌になりました。皆さん、ありがとうございました。 新井

ご意見・ご感想をお寄せください。

鎌ヶ谷市男女共同参画推進センター

鎌ヶ谷市富岡 1-1-3 ショッピングプラザ鎌ヶ谷 3階
 TEL:047(401)0891 / FAX:047(401)0892 E-mail:danjyo@city.kamagaya.chiba.jp

取材を快く受けていただいた皆さん
 ありがとうございました。

発行日 平成29年3月31日

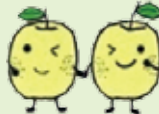


やがて
 故郷に
 変わる街
 鎌ヶ谷

第12号



鎌ヶ谷市男女共同参画情報誌



紙面の目次

- ★男女共同参画に関する高校生アンケート…………… 2
- ★働く女性インタビュー
 紙芝居師 三橋 とら さん…………… 3
- ★潜入！！女性のためのエンパワーメント講座
 「なりたい私を見つける」…………… 4

男女共同参画とは…？

男性も女性も同じ社会の一員として、お互いを尊重し合いながら、共に社会に参画し、喜びも責任も分かち合うことだよ。
 ※「参画」とは、単に参加するだけではなく、自ら進んで責任を持って係わることなんだ。



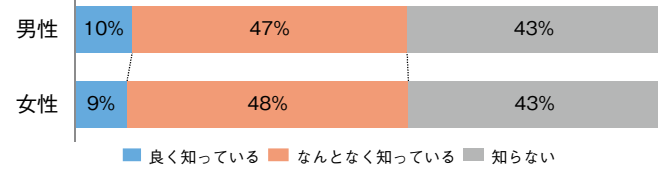
男女共同参画に関する高校生アンケート



前回の「お父さんの家事・育児アンケート」に続き、今回は市内の高校2年生（男女合わせて543名）を対象に男女共同参画に関する若い世代の意識や関心についてアンケート調査を行いました。

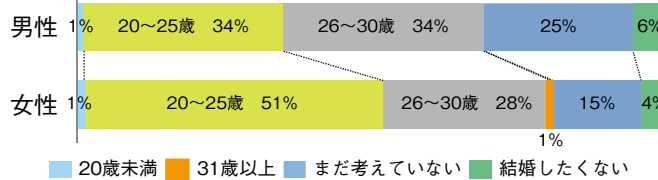
意外な結果も多かった今回の調査。各ご家庭でお子様とお話ししながら見ていただけると幸いです。

Q 「男女共同参画」という言葉を知っていますか。



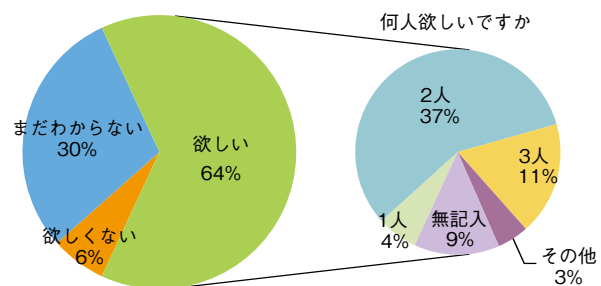
「男女共同参画」という言葉を知らない人が半数近くもいたのには、ちょっと驚きでした。

Q あなたは、いくつくらいで結婚したいと思いますか。



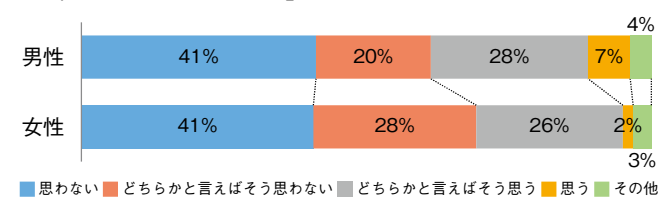
晩婚化が進む中で男子も女子も「30歳までに結婚したい」と思っている人が意外と多かったですね。特に、女子は25歳までに結婚したいと考えている子が半数以上もいました。

Q あなたは、将来、子どもを欲しいと思いますか。



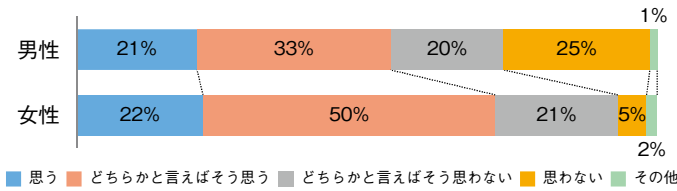
「将来、子供が欲しい」と思っている人が64%もいて、そのうち2人以上欲しいと答えた人が48%もいました。この人たちが子供を持つ時には、もっと子育てのしやすい社会環境になっているといいな。

Q 「男は仕事・女は家庭」という考え方をどう思いますか。



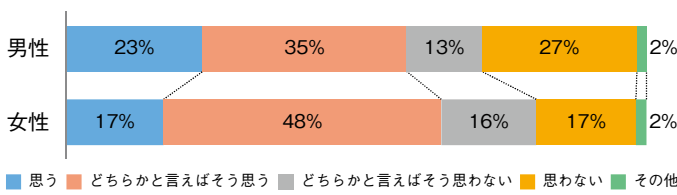
「男の役割、女の役割」を決め付けないという考えについて賛成の男子が6割に対して女子が7割もいるね。

Q 学校で、「男子・女子」は平等だと思いますか。

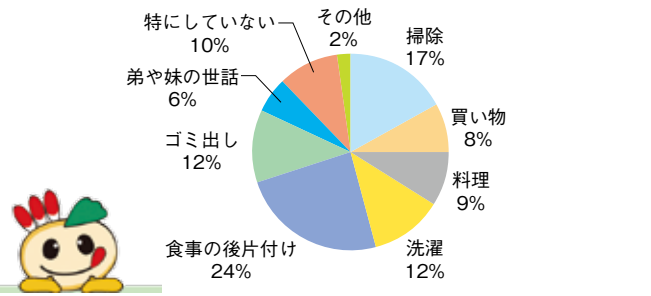


男子より女子の方が「平等だ」と思っている割合が高いね。女子の方が男女の区別意識なく、のびのびしているのかな。

Q 職業について男性と女性の職業の区別はあると思いますか。

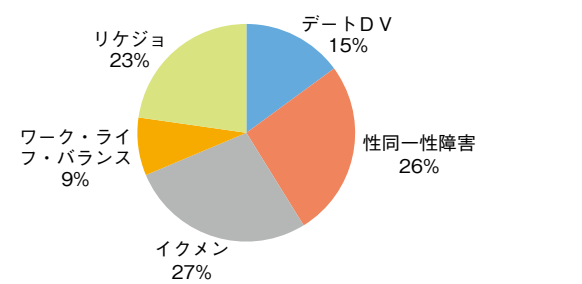


Q あなたは、家でどういった家事をしていますか。



9割の子は何かしら家事を手伝っているようでちょっと安心!! 左下の質問で、3割が「男は仕事、女は家庭」と思っているようだけれど、その子たちも何らかのお手伝いをしているように見受けられるね。

Q 次の中で知っている言葉はありますか。



共働きが普通になってきて、家事も子育ても夫婦で一緒にやろうとする人が増えているのかな。

感想

男女共同参画という言葉、きちんと知っている人は意外と少なかったですね。最近の若者の結婚願望は「面倒くさいから恋愛したくない・結婚したくない」とマスコミに書かれていたけれど、鎌ヶ谷市内在学の高校生は男女とも70~80%が結婚したいと回答するなど、結婚を前向きにとらえている若者が多いようですね。

働く女性インタビュー

わたしが紙芝居をしている理由



紙芝居師 三橋とらさん

「私は紙芝居屋です。」という、「へええー」と驚かれます。まず「食べるの?」「なんで今更紙芝居屋を?」と質問攻めにあります。私持ちはわかります。私だってきつと同じ質問を返すでしょうから。私が紙芝居をやっている理由は母にあります。いきなりまじめな話になってしまいますが、家は母子家庭でした。両親はいわゆる「でぢやった結婚。私が母のお腹に宿り、当時二十二歳で

今回は東京は下町、荒川区生まれの二代目紙芝居師「三橋とらさん」に「紙芝居と私」というテーマで自身の紙芝居に対する苦労点や嬉しかった点などをざっくばらんに話していただきました。

私も演劇が好きで母とはよく芝居の話をしていました。すると母は機嫌がよくなり「やっぱりお前は私の子だ!才能がある!」なんて褒めてくれるのです。私は、母に褒めてもらいたい一心でがむしゃらに台本を書き、芝居に打込みました。母は喜んでくれますが大人になって、演劇だけではなかなか食べていけないという事がわかりました。

余裕も無くなった母は、親子喧嘩をした時に私にこう言ったものです。「あんたがいなければ私はずっと好きな演劇を続けられていたのに...」。母も辛かったのでしょうが、私だって辛かった。何度も何度も生まれてこなければ良かったと思いましたが、しかし、面白いこともあって、やはり蛙の子は蛙。私も演劇が好きで母とはよく芝居の話をしていました。すると母は機嫌がよくなり「やっぱりお前は私の子だ!才能がある!」なんて褒めてくれるのです。私は、母に褒めてもらいたい一心でがむしゃらに台本を書き、芝居に打込みました。

女優を目指し茨城から上京してきた母は、同じ劇団員の父と結婚し、私や弟妹を産み子育てをしながら、再び「芝居」をすることが出来ないか考えました。私の生まれた荒川区は紙芝居の発祥の町だそうで、私が小さい頃には黄金バットをやっている紙芝居のおじさんがいました。母は絵を描くのも好きでしたから、紙芝居を自作して自転車の荷台に紙芝居の舞台を積み、駄菓子屋でお菓子を買い近所の公園で紙芝居をしていたのです。



最初は「勝手にすれば!」と苦笑していた母も、最近では私の紙芝居を観に来てくれます。母からのダメ出しは、どんなお客さんの言葉より刺さりませんが、毎回ありがたく聞いて参考にしています。私にとっても紙芝居とは、親子の絆。これからも、たくさんの子供や昔子

もちろん普通に就職して会社勤めをするのが一番良いことで、母だって安心するのは間違いありません。でも、私は紙芝居が好き。芝居を観てくれた母親がやっぱりお前は私の子だ!と言ってくれる笑顔が忘れられなかったのです。ある時、実家の押入れから、母が使っていた紙芝居の道具が一式出てきました。私や弟妹を育てるためにやめてしまった紙芝居。

供だった皆さんと一緒に紙芝居を楽しんでいきたいと思えます。これを読んでもくださっている皆さんとも、いつか何処かでお会いできる日を楽しみにしています。紙芝居の醍醐味は「肉声」だからこそその迫力とライブ感! 大人も子供も懐かしい紙芝居を是非「なまで」観ていただきたいと思えます。

